

高等学 校

平成 30 年度

# 教育研究員研究報告書

公 民

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	3
III	研究仮説	3
IV	研究方法	5
V	研究内容	8
VI	研究の成果	22
VII	今後の課題	23

研究主題	<b>現代の諸課題について概念や理論を活用して考察 する学習活動と学習評価の充実</b> ～思考力、判断力、表現力等をも高める授業と ルーブリック評価の工夫～
------	---

## I 研究主題設定の理由

本研究では、高等学校学習指導要領解説公民編（平成 30 年 7 月）（以下、「学習指導要領解説」と表記。）で指摘された「これからの時代に求められる『資質・能力』を育むための授業改善と学習評価の充実」について検討した。

選挙権年齢及び成年年齢が満 18 歳以上に引き下げられることに伴い、生徒にとって政治や社会はより一層身近なものとなった。高等学校においては、生徒が社会で求められる資質・能力を育み、生涯にわたって探究を深める未来の創り手として送り出すことが、これまで以上に重要になり、その手法としての「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(文部科学省 平成 28 年 12 月 21 日、以下、「中央教育審議会答申」と表記。)では、複雑で予測困難な社会の変化に主体的に関わり、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要とされた。この「中央教育審議会答申」に基づいた「高等学校学習指導要領」の改訂では、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成することを目標とし、「何のために学ぶのか」、という各教科等を学ぶ意義を共有しながら、授業の創意工夫や教材の改善を引き出すことができるよう目標を定めている。

「中央教育審議会答申」及び「高等学校学習指導要領」において、新しい時代に求められる資質・能力は以下の三つの柱に整理された。

- ・生きて働く「知識及び技能」の習得
- ・未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成
- ・学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養

本研究では、「知識及び技能」の習得が「思考力、判断力、表現力等」を育成し、「学びに向かう力・人間性」を高めることにつながると考えた。そこで、本研究における「これからの時代に求められる『思考力、判断力、表現力等』」について、「学習指導要領解説」を基に、以下の内容を確認した。

- ・現代の諸課題について、事実を基に概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、公正に判断したりする力
- ・合意形成や社会参画を視野に入れながら、社会的事象や課題について構想したことを、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして論拠を基に議論する力

本研究での主題を設定するに当たり、「中央教育審議会答申」を基に、現状について、以下の 3 点に整理した。

- ①現代の諸課題について、社会的な見方・考え方を働かせて考察し、獲得した概念や理論を基にして様々な情報を適切に読み取りまとめる技能の育成が十分にできていない。

②現代の諸課題について、多面的・多角的に考察し、解決に向けて公正に判断したりする力や、議論する力を十分に育成できていない。さらに、それらの活動を適切に評価する実践も十分になされていない。

③現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養い、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることが十分になされていない。

この現状を改善するため、本部会では既習事項を基に現代の諸課題を社会的な見方・考え方を働かせて理解させ、様々な情報を適切かつ効果的に読み取りまとめる技能の育成を目指す。

平成 28 年度の教育研究員高等学校公民部会では、社会的事象について、多面的・多角的に考察し、その内容を表現する力を育むための指導と評価の一体化について研究した。研究成果として、身に付けた知識・技能を活用する場として、個人ワーク、グループワークなどの主体的・対話的で深い学びの場面を授業に取り入れた、効果的な学習活動の在り方が提示された。

平成 29 年度の教育研究員高等学校公民部会では、単元指導計画に着目して適切な学習課題を設定することで、思考力、判断力、表現力等を高めることができると考えた。「現実社会の諸課題について、課題把握・課題追究・課題解決の学習過程を通して、公正に判断する力・論拠を基に議論する力を育むための授業改善」という研究主題を設定し、その内容や方法について授業実践に有用な学習指導案を提案した。研究成果として、第一に課題把握・課題追究の学習過程で多面的・多角的に考察し、公正に判断する力や課題解決の学習過程で論拠を基に議論する力を育めるかについて、ルーブリックの検証により有効性を実証した。第二に効果的なルーブリックの使い方・提示の仕方について、研究と学習過程に応じた「思考力、判断力、表現力等」を育むための単元指導計画を作成することが課題として提示された。

そこで、平成 30 年度教育研究員高等学校公民部会では、社会的な見方・考え方を働かせて考察・構想する学習活動に着目し、適切な学習評価を設定することで思考力、判断力、表現力等を高めることができると考えた。「現代の諸課題について概念や理論を活用して考察する学習活動と学習評価の充実～思考力、判断力、表現力等を高める授業とルーブリック評価の工夫～」という研究主題を設定し、その内容や方法について授業実践に有用な学習指導案と学習評価を提案することにした。

## Ⅱ 研究の視点

Iで設定した研究主題に基づく研究の視点は3点である。

### 1 社会的な見方・考え方を働かせること

「中央教育審議会答申」では、「社会的な見方・考え方」を、課題を追究したり解決したりする活動において、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする際の視点や方法と定義した。公民科の本質的な学びを促し、深い学びを実現するための思考力、判断力を育成するとともに、生きて働く知識の習得に不可欠なものとして資質・能力全体に関わるものである。そのため、教科等の学習と社会との学習をつなぐものとして、「社会的な見方・考え方」を働かせた学習活動を行うこととした。

### 2 現代の諸課題と生徒とのつながりに「問い」を通して気付かせること

本研究では、現代の諸課題と生徒とのつながりに気付かせ課題解決の見通しをもたせることで、選択・判断の手掛かりとして活用できる概念や理論を身に付けられると考えた。「中央教育審議会答申」では、主体的に社会の形成に参画する態度や、資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分と指摘されている。生徒が現代の諸課題を身近なものとして捉え、主体的に学ぶ態度を育成するために、現代の諸課題と生徒とをつなぐ「問い」を授業に取り入れることとした。

### 3 ルーブリックの活用

現代の諸課題について、合意形成や社会参画を視野に入れた議論を行い、それらの活動を適切に評価する学習評価の充実を図る必要がある。それにより、生徒は現代の諸課題を多面的・多角的に考察し、主体的に解決しようとする態度と人間としての在り方生き方についての自覚を涵養することができると考えた。思考力、判断力、表現力等を把握するためのルーブリックを作成し、習得した概念や理論を用いて自分の意見や考えをまとめる活動に留意して学習評価を検討することとした。

## Ⅲ 研究仮説

本研究では、三つの仮説を立て、検証授業を通して、その有効性について分析する。

仮説1 現代の諸課題と生徒とのつながりに「問い」を通して気付かせ、課題解決の見通しをもたせることで、選択・判断の手掛かりとして活用できる概念や理論を身に付けさせることができる。

選択・判断の手掛かりとして活用できる知識として概念や理論を身に付けさせることで、現代の諸課題を追究したり課題解決や合意形成に向けて議論したりする力を養うなどの深い学習を行うことができるようになる。現代の諸課題を考察するための知識として概念や理論の有用性を感じさせることは、生徒が現代の諸課題に主体的に向き合うことにつながる。

そこで、現代の諸課題と生徒とのつながりに「問い」を通して気付かせ、学習する概念や理

論が課題追究や課題解決に役立つという見通しをもたせる。それとともに、諸資料を読み取りまとめる学習活動を設定することで、選択・判断の手掛かりとなる概念や理論を習得させることができる考えた。

仮説2 現代の諸課題の解決に向け、社会的な見方・考え方としての概念・理論を活用して多面的・多角的に考察する学習を充実させれば、思考力、判断力、表現力等を育成できる。

これからの時代に求められる「資質・能力」の中核に、公民科における「社会的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察する力」がある。社会的な事象等を概念や理論を活用して様々な側面・角度から捉える力があれば、生徒を取り巻く多種多様な課題に対して、自分の意見や考え方を伝え合うとともに、発展させたり合意形成に向かったりすることができる。日常生活と結び付いた知識としての概念や理論を十分に活用することを明確にし、生徒同士が対話を取り入れた活動を通じて課題を追究することで、現代の諸課題の解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れて構想したことを議論したりする学習活動を展開することができる。

そこで、生徒にとって身近な話題を取り上げ、現代の諸課題の解決に向けて概念や理論を当てはめて考察する対話的活動（グループワーク等）を設定する。これにより、社会的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察する力を育成できると考えた。

仮説3 思考力、判断力、表現力等を把握するルーブリックを作成し、生徒が自分の意見や考えをまとめる活動に活用することで、教員が生徒の学習到達度を把握し、授業改善につなげることができる。

対話的活動により、「社会的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察する力」を育成する。単元のまとめで「概念や理論を用いて自分の意見や考えをまとめる活動」を行い、それぞれの目的に応じて作成したルーブリックを事前に提示する。身に付けさせたい「資質・能力」について生徒と教員との間で共有することで、「何ができるようになるか」を明確にした授業を作り上げることができる。

ルーブリックに基づき、生徒は対話的活動及び論述活動の自己評価を行う。教員が論述活動の評価を行い、生徒の自己評価と比較することで、学習達成度をルーブリックによる評価とワークシートの記述から多面的・多角的に検証する。その結果を基に「何が身に付いたか」、「子供一人一人の発達をどのように支援するか」の方向性を明らかにすることで、授業で「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」について改善できると考えた。

## IV 研究方法

本研究では、現代の諸課題についての概念や理論を活用して考察する学習活動とルーブリック評価の工夫を、授業展開と学習過程に位置付けた。検証授業を以下の方法で行う。

- ①各科目において授業展開と学習過程に理論や概念の「習得」・「活用」・「探究」の場面を設定する。
- ②生徒に現代社会の諸課題と生徒とのつながりを意識することができるような問い（視点）を提示し、課題解決に有用な概念や理論であるという見通しをもたせ、諸資料を読みとりまとめることで、概念や理論を習得させる。
- ③生徒にとって身近な話題を取り上げ、習得した概念や理論を活用し、多面的・多角的に考察できるような対話的活動（グループワーク等）を行う。
- ④習得した概念や理論を活用して自分の意見や考えをワークシートに記述させる。対話的活動においては、生徒の自己評価を行う。論述活動においては、生徒の自己評価に加えて教員も評価をする。事前に提示したルーブリックによる学習活動の自己評価を実施する。
- ⑤検証授業を2回実施し、生徒の自己評価の平均値の推移と、各授業における生徒の自己評価及び教員評価の平均値と分布を分析することで、生徒の思考力・判断力・表現力等を育成するための学習活動及び学習評価の研究を進める。

### 1 検証授業

中等教育学校1校、高等学校2校それぞれにおいて、検証授業を2回行った（検証授業1、検証授業2）。なお、実践事例は検証授業2について述べている。

#### (1) 実践事例Ⅰ：「政治・経済」（中等教育学校第6学年 128名）

「消費者問題」について、民法改正による成年年齢の引き下げの影響を関連付けて考察した。消費者問題に関する基礎的な知識を習得させ、悪徳商法など現代の諸課題と結び付けて対話する活動を実践し、自己評価を行った。習得した概念や理論を活用し考察した現代の諸課題について自分の意見を記述し、生徒の自己評価及び教員評価を実施した。

#### (2) 実践事例Ⅱ：「倫理」（高等学校第2学年 77名）

「イギリス経験論」について、「知は力なり」を説いたベーコンの思想に関する知識を習得した。人間の正しい判断を妨げる先入観や偏見などを示すイドラと、フェイクニュースなど現代の諸課題と結び付けて対話する活動を実践し、自己評価を行った。習得した概念や理論を活用し考察した現代の諸課題について自分の意見を記述し、生徒の自己評価及び教員評価を実施した。

#### (3) 実践事例Ⅲ：「政治・経済」（高等学校第3学年 311名）

「雇用と労働問題」について、労働法や現代の労働問題などの知識を習得した。雇用環境の変化などの知識を基に、過労死など現代の諸課題に結び付けて対話する活動を取り入れ、自己評価を行った。習得した概念や理論を活用し考察した現代の諸課題について自分の意見を記述し、生徒の自己評価及び教員評価を実施した。



## 2 具体的方策

- (1) 授業の導入部において、現代の諸課題と生徒とのつながりを意識できる問い（視点）を提示する。課題解決に有用な概念や理論の見通しをもたせ、諸資料を読みとりまとめることで、概念や理論を習得させる。
- (2) 授業の展開部において、生徒にとって身近な話題を取り上げ、習得した概念や理論を活用し、多面的・多角的に考察できる対話的活動（グループワーク等）を行う。
- (3) 授業のまとめにおいて、自分の意見や考えを図1の共通のワークシートに記述させ、事前に提示したルーブリックによる学習活動の自己評価と教員による評価を実施し、その結果から授業改善を行う。

図1 共通のワークシート（ひな型）

テーマ：[ ] 基軸となる問い：[ ]	
<p>①知識、概念や理論の習得</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>先哲の思想や新聞記事等の資料</p> </div>	<p>②対話的な活動</p> <p>問い：[ ]</p> <p>活用する概念や理論：[ ]</p> <p>【ルーブリック α（対話）】</p>
	<p>③まとめ</p> <p>問い：[ ]</p> <p>活用する概念や理論：[ ]</p> <p>【ルーブリック β（論述）】</p>

## 3 検証方法

生徒の学習到達度を図るため、ルーブリックを2種類作成した（表1、表2）。

資料等を適切に用いて論理的・客観的に示したり、根拠を基に自分の意見や考え方を伝え合ったりする力を養うため、対話的活動におけるルーブリック（以下、「ルーブリック α」と表記。）を作成し、自己評価の推移を比較する。

同様に、「事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察する力」を育成するため、自分の意見や考えを論述する活動におけるルーブリック（以下、「ルーブリック β」と表記。）を作成した。

諸資料を読みとりまとめる学習活動において、適切かつ効果的に情報を取り出し、概念や理論を習得できているか、論述において自分の意見や考えをどのように記入しているのかを確認し、自己評価の推移とともに教員の評価との差異について変容を確認する。さらに、概念や理論の習得・活用の状況をワークシート等の記述から検証する。

以上の学習活動の評価等により、思考力、判断力、表現力等が育成できたかを考察し、授業における改善点を明らかにする。



表1 対話的活動におけるルーブリック（ルーブリックα）

対話	A（目標）	B	C	D
①	何を考えるべきか分かり、学んだことを根拠に <b>自分なりの新しい考え</b> をもてている。	何を考えるべきか分かり、 <b>学んだことを根拠</b> に自分の考えがもてている。	<b>何を考えるべきか</b> 分かり、自分の考えがもてている。	自分の考えをもつことが不十分である。
②	班員の意見に耳を傾け、自分の考えに、 <b>どの意見を取り入れるべきか判断</b> できている。	班員の意見に耳を傾けながら、 <b>自分の意見をもつ</b> ことができている。	班員の意見に <b>耳を傾ける</b> ことができている。	班員の意見に耳を傾けることが不十分である。
③	全体への発表に向けて、班員に自分の考えを <b>分かりやすく</b> 伝え合うことができている。	<b>全体への発表に向け</b> 、班員に自分の考えを伝え合うことができている。	班員に自分の考えを <b>伝え合う</b> ことができている。	自分の考えを伝えることが不十分である。

※対話的な活動における取組を生徒が自己評価する。

表2 論述活動におけるルーブリック（ルーブリックβ）

	A（目標）	B	C	D
論述	授業のキーワードを正しく理解し、論述の問いに結び付けて、自分の考えを <b>根拠に基づいて</b> 説明できている。	授業のキーワードを <b>正しく理解</b> し、論述の問いに <b>結び付けて</b> 、自分の考えを説明できている。	授業のキーワードの理解がやや不十分または、論述の問いとの結び付きがやや不十分であるが、 <b>自分の考えはもてた</b> 。	授業のキーワードの理解が不十分で、論述の問いと結び付けることができている。

※論述の学習活動における記述に対して生徒による自己評価と教員による評価を実施する。

## V 研究内容

全体テーマ 「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」

高校部会テーマ 「これからの時代に求められる『資質・能力』を育むための授業改善・学習評価の充実」

各教科等における「資質・能力」について

- 1 現代の諸課題を理解し、諸資料から情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能
- 2 事実を基に概念を活用して多面的・多角的に考察したり、公正に判断したりする力
- 3 合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力
- 4 現代の諸課題を主体的に解決する態度や、人間としての在り方生き方の自覚

高校部会テーマにおける現状と課題

【現状】

- 1 現代の諸課題について、社会的な見方・考え方を働かせて考察し、様々な情報を適切に読み取りまとめる技能の育成が十分にできていない。
- 2 現代の諸課題について、多面的・多角的に考察し、解決に向けて公正に判断したりする力や、議論する力を十分に育成できていない。さらに、それらの活動を適切に評価する実践も十分にされていない。
- 3 現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養い、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることが十分にされていない。

【課題】

- 1 現代の諸課題について社会的な見方・考え方を働かせて理解させ、様々な情報を適切かつ効果的に読み取りまとめる技能を育成する必要がある。
- 2 現代の諸課題について合意形成や社会参画を視野に入れた議論を通し多面的・多角的に考察させ、それらの活動を適切に評価する学習評価の充実を図る必要がある。
- 3 現代の諸課題についての深い理解を通して、主体的に解決しようとする態度と、人間としての在り方生き方についての自覚を涵養する必要がある。

【テーマ設定のための着眼点】

「社会的な見方・考え方」、「問いの設定」、「ルーブリック評価」

### 高等学校公民部会主題

現代の諸課題について概念や理論を活用して考察する学習活動と学習評価の充実  
～思考力、判断力、表現力等を高める授業とルーブリック評価の工夫～

仮説

- 1 現代の諸課題と生徒とのつながりに「問い」を通して気付かせ、課題解決の見通しをもたせることで、選択・判断の手掛かりとして活用できる概念や理論を身に付けさせることができる。
- 2 現代の諸課題の解決に向け、社会的な見方・考え方としての概念・理論を活用して多面的・多角的に考察する学習を充実させれば、思考力、判断力、表現力等を育成できる。
- 3 思考力、判断力、表現力等を把握するルーブリックを作成し、生徒が自分の意見や考えをまとめる活動に活用することで、教員が生徒の学習到達度を把握し、授業改善につなげることができる。

具体的方策

- 1 授業の導入部で、現代の諸課題と生徒との関連を意識させる問い（視点）を提示し、諸資料を読みとりまとめさせることで、概念や理論を習得させる。
- 2 授業の展開部で、生徒にとって身近な話題を取り上げ、習得した概念や理論を活用し、多面的・多角的に考察できる対話的活動を行う。
- 3 授業のまとめで、自分の意見や考えをワークシートに記述させ、事前に提示したルーブリックによる学習活動の評価を実施し、その結果から授業改善を行う。

検証方法

- 1 概念や理論の習得・活用の状況をワークシート等の記述から検証する。
- 2 習得した概念や理論を活用する学習活動を行い、ルーブリックを用いて思考力、判断力、表現力等が育成できたかを検証し、改善点を明らかにする。

## 1 実践事例Ⅰ 政治・経済

教科名	公民	科目名	政治・経済	学年	第6学年
-----	----	-----	-------	----	------

### (1) 単元（題材）名、使用教材(教科書、副教材)

- ア 単元名 現代経済のしくみ
- イ 使用教材 『高校 政治・経済』（実教出版）  
『最新政治・経済資料集 新版』（第一学習社）  
『社会への扉』（消費者庁）

### (2) 単元の目標

- ・市場経済における課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料を基に社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的にまとめることができる。
- ・市場経済の機能や限界について、身に付けた概念や理論を活用して多面的・多角的に考察し、構想する活動を通して、根拠に基づいて判断し表現できる。
- ・市場の機能と限界について、現実社会の諸事象を通して理解を深め、解決に向けて意欲的に取り組んでいる。

### (3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①市場経済における基本的な概念や理論を理解した上で、身に付けた概念や理論を活用して諸資料から情報を効果的にまとめることができる。 ②消費者問題に関わる基礎的な背景を理解し、成年年齢下げと契約自由の原則という概念を用いて、今後の消費者問題の課題をまとめる。	①経済主体である現代の企業が果たす役割について、利潤の追求だけではなく、概念や理論を活用して社会的な役割を果たしていることを表現できる。 ②成年年齢が満18歳以上に引き下げられることで、どのような消費者問題が発生するか、概念や理論を活用しながら根拠に基づいて判断し、表現している。	①市場経済の効率性ととともに、市場の失敗の補完の観点を踏まえて、解決に向けて意欲的に取り組む。 ②現代の企業が果たす役割を踏まえて、自分が働く当事者として考察し、よりよい企業の在り方を意欲的に追究しようとする。

### (4) 単元の指導と評価の計画(3時間扱い)

時間	学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法など)
		ア	イ	ウ	
【基軸となる問い】市場経済の限界をどのように解決すればよいのだろうか。					
第1時	【ねらい】市場経済が果たす機能と市場経済には限界があることに気付く。				
	【問い】市場経済にはどんな限界があるだろうか。				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市場で価格が果たす役割を現実社会の諸事象から見いだす。</li> <li>・需給曲線のグラフをもとに価格の自動調整作用及び超過需給、曲線のシフトの概念を理解する。</li> <li>・市場の失敗について、具体的な事例を通して理解し、政府が果たす役割に気付く。</li> </ul>	●		●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・需給曲線のグラフをもとに、関係する概念を適切にまとめている(ワークシートへの記入、提出)。</li> <li>・市場の失敗を克服する手だてを意欲的に話し合うことができている(机間指導による観察)。</li> </ul>

	【ねらい】 経済主体である企業が市場経済で果たす役割を主体的に考察する。			
	【問い】 将来あなたが働く際に、どんな組織で働きたいですか。			
第2時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・株式会社の特徴を理解する。</li> <li>・企業活動の目的を整理し、社会に対して果たすべき責任について、ある企業の事例を通して理解する。</li> <li>・自分が将来働きたい組織について、習得した概念を活用して考察する。</li> </ul>	●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよい企業の在り方を意欲的に対話することができる。（机間指導による観察、ワークシートの記入・提出【ループリックα】）</li> <li>・現代の企業が果たす役割について、概念や理論を活用してまとめることができる。（ワークシートへの記入、提出【ループリックβ】）</li> </ul>
	【ねらい】 消費者問題について当事者意識をもち、課題を考察する。			
	【問い】 成年年齢が満18歳以上になるとどんな消費者トラブルが起きるだろうか。			
第3時（本時）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者問題に関する基礎的な知識を習得する。</li> <li>・マルチ商法について習得した概念・理論を活用しながら対話し、考察、構想する。</li> <li>・成年年齢が満18歳以上に引き下げられた中等6年生のクラスでどのような問題が発生するかを習得した概念をもとに考察し、まとめる。</li> </ul>	●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マルチ商法の問題点を、概念や理論を活用しながら根拠に基づいて表現している。（机間指導による観察、ワークシートの記入、提出【ループリックα】）</li> <li>・消費者問題の課題を、成年年齢と契約自由の原則という概念をもちいてまとめられる（ワークシートへの記入、提出【ループリックβ】）</li> </ul>

## (5) 本時(全3時間中の3時間目)「国民の暮らし」

### ア 本時の目標

- (ア) 消費者に関する問題と自分自身を結び付けながら、選択・判断の手掛かりとして活用できる概念や理論を身に付ける。
- (イ) 消費者に関する問題の解決に向けて概念や理論を当てはめて考察する学習を通して、多面的・多角的に考察し、自分の言葉で表現することができる。

### イ 仮説に基づく本時のねらい

- ・生徒にとって身近な話題として、悪徳商法のうち5年の家庭科の授業で扱ったマルチ商法を取り上げる。本単元の第1時で習得させた概念や理論を活用し、多面的・多角的に考察する対話的活動を設定し、ループリックαによる学習活動の評価を実施する。
  - ・ワークシートに概念や理論を活用して考察した自分の考えを記述させ、事前に提示したループリックβによる学習活動の評価を実施する。
- ループリックα、βにより、思考力、判断力、表現力等の育成ができたかを検討する。

### ウ 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
導入3分	【問い】 消費者問題にはどのようなものがあるだろうか。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成年年齢が満18歳以上に引き下げられることを確認する。</li> <li>・本時の流れを確認し、見通しをもつ。【「問い」を通じた気付き】</li> <li>・悪徳商法の例をワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民法改正による成年年齢の引き下げで取り扱った内容を確認する。</li> <li>・5年の家庭科の授業で消費者に関する問題を取り扱ったことを指摘する。</li> </ul>	

展開① 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費者問題の背景について具体例を通して理解する。</li> <li>契約自由の原則と情報の非対称性という概念を、消費者問題を事例に取り上げながら理解する。</li> <li>4人の班で行う対話的活動において、クイズ(全12問)を解く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費者問題の原因が企業・政府・消費者のそれぞれにあることを多角的に捉えさせる。</li> <li>消費者に関する政策が消費者保護から消費者の自立支援へと変化してきたことを理解させる。</li> </ul>	
展開② 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費者トラブルに関する動画を視聴してマルチ商法の理解を深める。</li> </ul> <p><b>[多面的・多角的な考察]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4人の班で対話的活動を行いプレゼンテーションシートにまとめる。</li> </ul> <p><b>[ルーブリックの活用]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対話的活動をルーブリックαに基づき自己評価する。</li> <li>他の班のプレゼンテーションシートからよい考察をメモする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの用語、概念や理論の定義をICTにより示す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マルチ商法の問題点を、概念や理論を活用しながら根拠に基づいて表現している。(机間指導による観察、ワークシートの記入、提出【ルーブリックα】)</li> </ul>
まとめ 7分	<p><b>【まとめ論述】</b> 成年年齢が満18歳以上に引き下げられた時、6年生の間でどのようなトラブルが発生するか(100字以内)。 キーワード：①成年年齢 ②情報の非対称性</p> <p><b>[ルーブリックの活用]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対話的活動をもとに、【まとめ論述】を行う。</li> <li>ルーブリックβの自己評価を記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>論述の目当て(ルーブリック)を参考にしよう指示する。</li> <li>論述中は机間指導する。</li> <li>論述の自己評価を付けるように指示し、提出させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費者問題の課題を、概念や理論を用いてまとめられる。(ワークシートの記入、提出【ルーブリックβ】)</li> </ul>

## (6) 本時の振り返り

### ア ルーブリック評価の分析

分析対象は6学年4クラスの128名である。評価の分布を表3と表4に示した。ルーブリックβ(論述)について、表3の検証授業1では生徒の自己評価はAからDの広範囲に分布している。表4の検証授業2では生徒と教員がともにB評価を付けた割合が30%になった。教員評価より低い自己評価を付けた生徒は検証授業1の53%から検証授業2の36%へ減少し、教員評価より高い自己評価を付けた生徒は検証授業1の14%から検証授業2の20%へ増加した。

検証授業1と検証授業2のルーブリック評価の平均値を表5に示した。ルーブリックα(対話)について、①の思考が検証授業1の3.27から検証授業2の3.39へ上昇したが、②の判断

は同じで、③の表現は検証授業1の3.25から検証授業2の3.27と大きな変化は見られない。ルーブリックβは生徒の自己評価が検証授業1の2.88から検証授業2の2.75へ、教

表3 検証授業1「現代の企業」  
生徒と教員のルーブリック評価の分布

		生徒の自己評価			
		A	B	C	D
教員 評価	A	11%	27%	10%	1%
	B	7%	19%	13%	1%
	C	2%	3%	3%	1%
	D	2%	0%	0%	2%

表4 検証授業2「国民の暮らし」  
生徒と教員のルーブリック評価の分布

		生徒の自己評価			
		A	B	C	D
教員 評価	A	5%	12%	2%	0%
	B	9%	30%	18%	2%
	C	2%	8%	8%	2%
	D	0%	0%	1%	2%

表5 検証授業1と検証授業2のルーブリック評価の平均値

	ルーブリックα(対話)			β(論述)	
	①思考	②判断	③表現	生徒	教員
検証授業1	3.27	3.47	3.25	2.88	3.34
検証授業2	3.39	3.47	3.27	2.75	2.93

※A～Dを4～1として平均値を算出した。



員評価が検証授業1の3.34から検証授業2の2.93へと、平均値が低下している。

## イ ワークシートの分析

概念や理論の習得ができているかを確認するため、その活用状況をワークシートの記述から分析した。授業のまとめで、現代の諸課題に対する自分の意見についてキーワードを用いて論述させた。検証授業1の問いは「将来あなたが働く際に、どんな組織(会社、官公庁、病院等)で働きたいですか」、キーワードは「企業の社会的責任(CSR)、ステークホルダー」である。検証授業2の問いは「成年年齢が満18歳以上に引き下げられたとき、6年生の間では、どのようなトラブルが発生するだろうか」、キーワードは「成年年齢、情報の非対称性」である。検証授業2は検証授業1と比較してキーワードの概念や理論の難易度が上がった。

下にループリックβの評価が有意に上昇した生徒の記述を示す。

	自己評価	教員評価
<b>生徒A(キーワードの意味を正しく理解し、活用できるようになった例)</b>		
[検証授業1]自分たちの会社の利潤を求めるばかりではなく、 <u>ステークホルダー</u> を大切に、関わっている全ての人々に利益をもたらす会社。また、不祥事があった際にきちんとCSRがとれる会社。	B	B
[検証授業2]成年年齢に達すると契約の際の未成年者取消しができなくなる。また仲間同士での情報の非対称性により、情報を知らない相手にマルチ商法などで契約をさせる犯罪などが発生する可能性がある。	B	A
<b>生徒B(問いとの結び付きを意識するようになった例)</b>		
[検証授業1]迅速に回収、販売停止を行い、生産ラインを見直すことでCSRを果たす。また、謝罪会見をステークホルダーに対して行い、理解するまで説明をしなければならない。理解を得た上で、再発防止に努めるべきである。	A	D
[検証授業2]成年年齢が下げられることによって、また社会的、人間的にも未熟な高校生たちが、社会の仕組みをよく理解せずに契約書に署名してしまうような情報の非対称性を発生させてしまう可能性が十分にあると思われる。	C	A

生徒Aはキーワードの意味を正しく理解した上で論述テーマを考察できるようになった。また、生徒Bは検証授業1では問いを正しく理解していなかったが、検証授業2では問いに正対してキーワードの正しい理解を基にした論述ができるようになった。

## ウ 仮説の検証

生徒AやBが、キーワードの意味を正しく理解して論述できるようになったことが示すように、現代の諸課題と生徒との関わりを意識させる問い(視点)を提示することで、資料を分析してまとめ、概念や理論を習得させること、身近な話題を取り上げ、概念や理論を活用し、多面的・多角的に考察する学習による思考力、判断力、表現力等の向上を図ることができたと考える。

検証授業2では、検証授業1の結果を踏まえて生徒の到達度を鑑み、概念や理論などの学習内容の焦点化や対話的活動や論述のキーワードの難易度を調整することで授業改善を図った。ループリックβの生徒評価の平均値が検証授業1の2.88から検証授業2の2.75へ、教員評価の平均値が検証授業1の3.34から検証授業2の2.93へと低下した理由として、概念や理論の難易度が上がったことが考えられる。

## エ 成果と課題

### (7) 成果

政治・経済の授業で現代の諸課題を取り上げ、対話的活動を通して多面的・多角的に考察させることができた。また、論述活動を取り入れることで、望ましい社会の在り方に関する概念や理論の習得を図ることができた。生徒に求める資質・能力を明確にした授業を展開し、生徒が学習のねらいを理解して振り返ることができたことにより、教員と生徒の双方において、学習活動のねらいを明確にすることができた。

(イ) 課題

ルーブリックβで、検証授業1において教員評価より自己評価が低い生徒の割合を合計したところ、36%だった。生徒の自己評価と教員評価を近付けるには、ICT機器を活用して具体的な活動のイメージを共有する作業を行うなど、教員と生徒の間で目指すべき姿(目標)の相互理解を図ることが効果的と考える。論述活動の前にはルーブリックの提示とともに、論述の例をいくつか取り上げるなど、生徒にルーブリック評価を練習させることが効果的と思われる。それは目標(Aに該当)を強く意識して論述することにつながり、自己評価する際もルーブリックに基づく適切な評価になると考える。

2 実践事例Ⅱ 倫理

教科名	公民	科目名	倫理	学年	第2学年
-----	----	-----	----	----	------

(1) 単元(題材)名、使用教材(教科書、副教材)

- ア 単元名 経験論と合理論
- イ 使用教材 『高校倫理』(実教出版)  
『倫理資料集』(清水書院)

(2) 単元(題材)の目標

- ・経験論と合理論における代表的な先哲の思想を理解し、正しい認識に基づく確かな知識の探究についての見方・考え方(概念や理論)を身に付ける。
- ・先哲の思想に関する資料(原典の日本語訳等)を読み取り、まとめる技能を身に付ける。
- ・現代の諸課題について、正しい認識に基づく確かな知識の探究についての概念や理論を活用して多面的・多角的に考察し、自分の考えを説明したり、論述したりする。
- ・現代の諸課題について主体的に探究したり、他者とともによりよく対話したりしようとする態度を養い、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。

(3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①経験論と合理論の学習を通して、正しい認識と知識の在り方について判断の手掛かりとなる概念や理論を理解している。 ②先哲の思想に関する資料(原典訳等)を読み取り、まとめる技能を身に付ける。	①正しい認識と知識の在り方に関する現代の諸課題について先哲の考え方を手掛かりとして、学習した概念や理論を活用して多面的・多角的に考察し、自分の考えを説明したり、対話したり、論述したりすることができる。	①正しい認識と知識の在り方に関わる事象や現代の諸課題について主体的に探究したり、他者とともによりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養い、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。



(4) 単元（題材）の指導と評価の計画（4時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法など)
		ア	イ	ウ	
【基軸となる問い】正しい認識にもとづいた確かな知識を探究するにはどうすればよいのか。					
第1時	【ねらい】ベーコンの思想に関する資料を適切に読み取り、正しい認識と知識の探究に関わる概念や理論を習得する。				
	【問い】正しくない知識や情報を信じてしまうのはなぜか。				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベーコンの思想について資料（学問、イドラ）を読み取り、理解する。（『ノヴム・オルガヌム』）</li> <li>「四つのイドラ」の例について、6人の班で対話的活動を通して理解を深める。（グループワーク）</li> <li>帰納法と科学についての資料を読み取り、知識の在り方と人間の生き方に着目して、ベーコンの思想の特徴をまとめる。</li> </ul>	●		●	<ul style="list-style-type: none"> <li>イドラの例について、意欲的に話し合うことができる。（机間指導による観察）</li> <li>知識の在り方と人間の生き方についてのベーコンの思想の特徴を適切にまとめている。（ワークシートの記入、提出）</li> </ul>
【ねらい】習得した概念や理論を活用しながら考察し、自分の考えを論述する。					
【問い】フェイクニュース問題について「イドラ」を使って考えよう。					
第2時（本時）	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディアとフェイクニュースについて映像資料などを通じて理解する。</li> <li>前時に学習した「四つのイドラ」について確認する。</li> <li>ベーコンの思想を踏まえ、フェイクニュース問題について対話し、思索を深める。（グループワーク、発表・共有）</li> <li>現代の課題について、キーワードを用いて自分の考えを論述する。</li> </ul>		●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>習得した概念・理論を活用して、他者の意見を踏まえ、発表に向けて意欲的に対話することができる。（机間指導による観察、ワークシートの記入、提出【ループリックα】）</li> <li>習得した概念や理論を活用して、適切にまとめている。（ワークシートの記入、提出【ループリックβ】）</li> </ul>
【ねらい】適切に資料を読み取り、経験論と合理論、帰納法と演繹法について理解する。					
【問い】認識や判断の根源を何に求めるか。どのように正しい知識に至るか。					
第3時	<ul style="list-style-type: none"> <li>認識や判断の根源に関する経験論の立場について、代表的な先哲の思想から理解する。</li> <li>デカルトの思想について資料（学問、良識）を読み取り、合理論の立場を理解する。（『方法序説』）</li> <li>演繹法についての資料を読み取り、帰納法と演繹法の違いについてまとめる。</li> </ul>	●			<ul style="list-style-type: none"> <li>帰納法と演繹法の違いについて理解し、適切にまとめることができる。（机間指導による観察）</li> </ul>
【ねらい】デカルトの思想に関する資料を適切に読み取り、知識の在り方と人間の生き方について考察する。					
【問い】なぜ、考える「わたし」が存在することは確実な真理と言えるのか。					
第4時	<ul style="list-style-type: none"> <li>デカルトの思想について、資料を読み取り、方法的懐疑と物心二元論について理解する。（『方法序説』『省察』）</li> <li>デカルトの道徳論について、資料を読み取り、理解する。</li> <li>合理論の代表的な先哲の思想を理解する。</li> <li>知識の在り方と人間の生き方に着目し、デカルトの思想をまとめる。</li> </ul>	●		●	<ul style="list-style-type: none"> <li>先哲の資料を意欲的に読み取り、適切な発言ができる。（机間指導による観察、発問）</li> <li>知識の在り方と人間の生き方についてデカルトの思想を適切にまとめている。（ワークシートの記入、提出）</li> </ul>

(5) 本時（全4時間中の2時間目）「イドラとフェイクニュース」

ア 本時の目標

- (ア) ベーコンの「イドラ」という見方・考え方を活用して、フェイクニュース問題について考察し、他者の意見を踏まえて発表に向けた対話をする。
- (イ) フェイクニュースについて主体的に考察し、習得した哲学の概念や理論に基づいて、自分の考えを論述する。

イ 仮説に基づく本時のねらい

- ・生徒にとって身近な話題として、フェイクニュースを取り上げ、前時に習得させた概念や理論を活用し、多面的・多角的に考察できるような対話的活動を設定する。ルーブリックαによる対話的活動の評価を実施する。
  - ・概念や理論を活用して考察した自分の意見や考えをワークシートに記述させ、事前に提示したルーブリックβによる論述活動の評価を実施する。
- ルーブリックα、βにより、思考力、判断力、表現力等の育成ができたかを検証する。

ウ 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
導入 15分	【問い】フェイクニュース問題について「イドラ」を使って考えよう。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の問題を「イドラ」の概念を使って考えるという見通しをもつ。</li> <li>・風刺画からメディアの特徴について読み取る。</li> </ul> <p>【「問い」を通した気付き】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動画からフェイクニュースと見抜くためのポイントについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のテーマと学習の流れをICTで提示するとともに、哲学の考え方の活用を意識させる。</li> <li>・諸資料から現代の諸課題について把握させる。</li> </ul>	
展開 25分	【対話的活動】哲学の考え方や方法を使って次のテーマについて考えよう。 「ベーコンさんだったら、フェイクニュース問題についてどのような気持ちや思いで、何と云うだろうか」 (活用する概念や理論：イドラ)		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に習得した概念・理論である「四つのイドラ」の内容を確認する。</li> </ul> <p>【多面的・多角的な考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマについて個人で考え、6人の班で対話的活動をする。</li> <li>・プレゼンテーションシートとグループワークシートに記入し、発表できるようにする。</li> </ul> <p>【ルーブリックの活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルーブリックαの自己評価を記入する。</li> <li>・グループごとに発表する。</li> <li>・発表内容をメモする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の理解を確かめ、必要に応じて補足する。</li> <li>・概念や理論を使って、柔軟に発想するように促す。</li> <li>・対話のため（ルーブリック）を参考に積極的な対話となるように促す。</li> <li>・グループワークの自己評価を付けるように指示する。</li> <li>・発表ではICTパソコンのカメラ機能や書画カメラを用い、プレゼンテーションシートを投影する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習得した概念や理論を活用して、意欲的に話し合い、他者の意見を踏まえ発表に向けて対話することができている。(机間指導による観察、ワークシートの記入、提出【ルーブリックα(対話)】)</li> </ul>
まとめ 10分	【まとめ論述】「フェイクニュースを信じてしまわないために、どうしたらよいか」①②のキーワードを用いて、自分の考えを説明しよう。(140字) キーワード：①イドラ(種族・洞窟・市場・劇場のうち2個)、②情報		
	<p>【ルーブリックの活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対話的活動をもとに、【まとめ論述】を行う。</li> <li>・ルーブリックβの自己評価を記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論述のため（ルーブリック）を参考に指示する。</li> <li>・論述の記入中は机間指導をする。</li> <li>・論述の自己評価を付けるように指示し、提出させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習得した概念や理論を活用して、適切にまとめている。(ワークシートの記入、提出【ルーブリックβ(論述)】)</li> </ul>

## (6) 本時の振り返り

### ア ルーブリック評価の分析

分析対象は2学年の77人である。評価の分布を表6と表7に示した。ルーブリックβ(論述)の評価の傾向を分析する。表6の検証授業1では、生徒の自己評価がA(39%)とB(49%)、教員評価がB(46%)とC(41%)に多く分散していたが、表7の検証授業2では生徒の自己評価の60%、教員評価の59%がBに集中した。また、教員より低い自己評価を付けた生徒が検証授業1の9%から検証授業2では39%へ増加し、教員より高い自己評価を付けた生徒が検証授業1の53%から検証授業2の9%へ減少した。

表8に検証授業1と検証授業2のルーブリック評価の平均値を示した。ルーブリックα(対話)は概ねB評価(3.30~3.13)であり、検証授業1と検証授業2に大きな差は見られない。一

方で、ルーブリックβは生徒の自己評価の平均が検証授業1の2.62から検証授業2の3.00、教員評価が検証授業1の3.26から検証授業2の3.36と、ともに上昇した。

### イ ワークシートの分析

ワークシートの記述から、概念や理論の習得や活用状況を分析する。授業のまとめとして自分の意見や考えを、キーワードを用いて論述させた。

検証授業1の問いは「ブッダの教えで現代人のストレスを和らげるには」、キーワードを「中道、四諦、八正道」とした。また、検証授業2の問いは「フェイクニュースを信じてしまわないために、どうしたらよいか」、キーワードは「イドラ(種族・洞窟・市場・劇場のうち2個)、情報」である。

次にルーブリックβの評価が有意に上昇した生徒の記述を示す。

#### 生徒C(全てのキーワードを活用し、意見が明確になった例)

	自己評価	教員評価
[検証授業1]中道とは、のめり込むことを苦とする考え方であり、それに則って考えると、会社や学校にそんなに力を入れすぎることには無いと思います。あんまり深く考えずに、人とは適切な距離感を保つことが良いでしょう。	C	C
[検証授業2]フェイクニュースというものは、主にSNSやテレビ、新聞で発信される。SNSでは、市場のイドラ、テレビ・新聞では劇場のイドラに振り回されないように、普段からいろいろな情報に対してほかの情報と照らし合わせたり、情報の発信元も信頼できるものなのか確認していく必要がある。	A	A

表6 検証授業1「現代人のストレスと仏教」  
生徒と教員のルーブリック評価の分布

		生徒の自己評価			
		A	B	C	D
教員評価	A	6%	4%	0%	0%
	B	16%	25%	5%	0%
	C	16%	17%	8%	0%
	D	1%	3%	0%	0%

表7 検証授業2「イドラとフェイクニュース」  
生徒と教員のルーブリック評価の分布

		生徒の自己評価			
		A	B	C	D
教員評価	A	13%	21%	5%	0%
	B	8%	38%	12%	1%
	C	0%	1%	1%	0%
	D	0%	0%	0%	0%

表8 検証授業1と検証授業2のルーブリック評価の平均値

	ルーブリックα(対話)			β(論述)	
	①思考	②判断	③表現	生徒	教員
検証授業1	3.14	3.29	3.13	2.62	3.26
検証授業2	3.23	3.30	3.13	3.00	3.36

※A~Dを4~1として平均値を算出した。

### 生徒D（問いとの結び付きを意識するようになった例）

[検証授業1]苦行とは無意味であり、極端な快楽や欲望の生活と極端な苦行生活を避けた中道を実践することにより、煩悩を解き放つことができる。また苦の根本原因となる無明を破るためには四諦といった修行が必要である。その具体的な実践方法としては日常的に正しい行いをする八正道があげられる。	C	C
[検証授業2]大量の情報があり、正しい情報なのか見分けることが大変難しくなっている。そのため、私たちは個人のせまい経験による洞窟のイドラや不適切な言語の使用による市場のイドラにまどわされないようにする必要がある。情報を聞いた時すぐに信じてしまわずに一度本当に正しい情報なのかを疑うべきだ。	B	A

生徒Cは、キーワードを全て活用しながら自らの考えを明確にして論述することができるようになっている。生徒Dは、キーワードの説明だけでなく、問いに正対した説得力のある論述ができるようになった。

### ウ 仮説の検証

ルーブリックβの評価の上昇や生徒のワークシートの記述から、現代の諸課題と生徒との関わりを意識させる問い（視点）を提示することで生徒は、資料を読み取りまとめ、概念や理論を習得させることができ、身近な話題を取り上げることで、概念や理論を活用し多面的・多角的に考察する学習による思考力・判断力・表現力が向上したと考える。また、検証授業1でルーブリック評価をした際、生徒の到達度を鑑み、概念や理論などの学習内容の焦点化や論述のキーワード設定について授業改善を図った。ルーブリックβについて説明する機会を設け、論述するときの目標として参考にするよう促した。それらの授業改善や指導が検証授業のルーブリック評価の結果に現れたことから、教員が生徒の学習到達度を把握し、授業改善につなげるという点でルーブリックの意義があったと考える。

### エ 成果と課題

#### (7) 成果

本授業において現代の諸課題を取り上げることで生徒は、対話的活動により多面的・多角的に考察し、論述することで、活用できる知識として哲学等の概念や理論の習得を図ることができた。特にまとめの論述では、生徒Cの検証授業2の例が示すように、社会的な見方・考え方としての概念や理論を適切に現実の課題に当てはめて考察することができている記述があり、生徒の思考力・判断力・表現力等の資質・能力を引き出すことにつながったと考える。生徒に求める資質・能力を明確にした授業展開をすることで、授業の具体的方策やルーブリック評価に一定の効果があったと考える。

#### (4) 課題

ルーブリックαの結果にあまり変化が見られない一方、ルーブリックβの結果は検証授業2で教員評価よりも自己評価が低い生徒の割合を合計したところ、39%だった。そのため、生徒に議論や対話、論述においてより具体的に目指すべき水準を自覚させることが課題である。

対話的活動においては、自己の取組を理由とともにA～Dで評価したり、グループとして発表した内容を吟味したりすることで、次の学習ではどのように取り組むか、見通しをもたせる活動を取り入れた授業改善ができる。結果を踏まえルーブリックの評価基準を精査するなど、学習評価と学習活動の改善が可能と考える。

### 3 実践事例Ⅲ 政治・経済

教科名	公民	科目名	政治・経済	学年	第3学年
-----	----	-----	-------	----	------

#### (1) 単元（題材）名、使用教材（教科書、副教材）

- ア 単元名 雇用と労働問題
- イ 使用教材 『政治・経済』（東京書籍）  
『最新政治・経済資料集 新版』（第一学習社）

#### (2) 単元（題材）の目標

- ・近年の雇用や労働問題について課題を探究するための選択・判断の手掛かりとして、歴史的経緯や諸法律等の意義及びそれらに関する概念や理論を身に付けることができる。
- ・近年の雇用や労働問題を取り巻く環境の変化と現代の諸課題について、習得した概念や理論を活用しながら、多面的・多角的に考察し、判断・表現することができる。
- ・現代の諸課題についての深い理解を通して、主体的に解決しようとする態度を養うことができる。

#### (3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①近年の雇用や労働問題を経済社会の変化等の観点から理解し、その知識を身に付けている。 ②近年の雇用や労働問題に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。	①近年の雇用や労働問題に関して、個人や企業、政府等の立場を踏まえて多面的・多角的に考察し、公正に判断した過程や結果を適切に表現している。 ②多様な労働問題の解決に向けて構想し、よりよい社会の在り方について自分の考えを説明、論述することができる。	①現代の諸課題を社会的な見方・考え方を働かせ、追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。

#### (4) 単元（題材）の指導と評価の計画（2時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法など)
		ア	イ	ウ	
【基軸となる問い】どのようにして労働環境を改善していけばよいだろうか。					
第1時	【ねらい】現代の労働問題を探究するための、概念や理論を身に付ける。				
	【問い】なぜ労働者を守る法律が存在するのか。				
	・アルバイトにおける問題から労働基準法の存在を理解する。 ・労働問題発生の歴史的経緯と現代における労働三法、労働三権の意義について理解する。 ・習得した知識や概念を用いて、【問い】を考察する。	●		●	・労働問題の歴史や労働三法、労働三権に関して、適切にまとめている。  ・問いについて考察し、自分の考えを論述することが出来ている。 (ワークシートの記入、提出)



第2時(本時)	【ねらい】 習得した概念や理論を活用しながら考察し、自分の考えを論述する。				
	【問い】 どうして労働問題は起こってしまうのか。				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>提示された資料から労働問題にまつわる情報を収集する。</li> <li>問いに対して、ケーススタディを通じて対話的に労働問題の原因を考察し、発表する。</li> <li>労働問題を無くすにはどのようにすべきかを考察し、キーワードを用いて論述する。</li> </ul>	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>労働問題に関して、多面的・多角的に考察し判断した結果を、表現している。(ワークシートの記入、提出【ループリックα】)</li> <li>労働問題の解決に向けて自分の考えを説明、論述することができる。(ワークシートの記入、提出【ループリックβ】)</li> </ul>

(5) 本時(全2時間中の2時間目)「労働問題を無くすには」

ア 本時の目標

- (ア) 現代の労働問題を探究するための選択・判断の手掛かりとして、労働問題と労働運動の歴史的経緯や、労働者の権利や労働組合の意義等の概念や理論を身に付ける。
- (イ) 雇用環境の変化と現代の労働問題について、習得した概念や理論を活用しながら、多面的・多角的に考察し、自分の考えを説明、論述することができる。

イ 仮説に基づく本時のねらい

- 生徒にとって身近なアルバイトや就職後に起こり得る労働問題を取り上げる。さらに本単元の第1時で習得した概念や理論を活用して多面的・多角的に考察する対話的活動を設定し、ループリックαによる学習活動の評価を実施する。
  - 概念や理論を活用して考察した自分の考えをワークシートに記述し、事前に提示したループリックβによる学習活動の評価を実施する。
- ループリックα、βにより、思考力・判断力・表現力等の育成ができたかを検討する。

ウ 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の内容の復習をかねて、本時で活用する「契約自由の原則」及び「労使対等」の概念を改めて確認する。</li> <li>動画を見て、労働三権や三法があっても労働問題が起きることを確認する。</li> <li>本時の問いを確認し、見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用し、前時の復習と、本時で活用する概念や理論を提示する。</li> <li>問いをワークシートに記入させ、本時の内容の見通しをもたせる。</li> </ul>	
	【全体の問い】 どうして労働問題は起こってしまうのか。		
展開 ① 10分	<p>【「問い」を通した気付き】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新聞記事の内容から、国の労働問題に対する対策を確認する。</li> <li>過労死に関する動画から、若者にとって労働問題が身近であることを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の理解を確かめ、必要に応じて補足する。</li> <li>動画等を活用して、より具体的かつ身近に問題を提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料から、課題解決に向けて構想する際に必要な情報を適切に収集している。(ワークシートの記入)</li> </ul>

展開 ② 25分	【対話的活動】配布された三つのケースを元に、各ケースの労働問題には、労働者、使用者、行政の立場のどこにその原因があるのか、グループで検討しよう。		
	<b>【多面的・多角的な考察】</b> ・4人の班に分かれ、【対話的活動】をする。 ・考察した結果をグループ内で共有し、ディスカッションシートにまとめる。 ・まとめた内容を元に、プレゼンテーションシートを準備し、発表する。	・グループワークの自己評価を付けるように指示する。 ・発表ではプレゼンテーションシートを元に1班につき1例を発表させる。 ・各班の作業進度に合わせて、適切に指導をする。	・労働問題に関して、個人や企業、政府等の立場を踏まえて多面的・多角的に考察し判断した結果を、表現している。(ワークシート記入) <b>【ルーブリックα(対話)】</b>
まとめ 10分	【まとめ論述】労働問題を発生させないためには誰がどのようにしたらいいか、キーワードを全て用いながら、論ずる立場を労働者、使用者、行政の中から一つ以上選択した上で論じなさい。(100字以内) キーワード：①労使対等 ②契約		
	<b>【ルーブリックの活用】</b> ・自らの対話的活動を自己評価する。 ・対話的活動を元に、【まとめ論述】をする。	・ルーブリックβ(論述)を参考にするように指示する。 ・立場は三つのうち一つ以上、キーワードは全て使用するように注意する。 ・論述の自己評価を付けるように指示し、提出させる。	・労働問題の解決に向けて構想し、よりよい社会の在り方について自分の考えを説明、論述することができる。(ワークシート記入、提出【ルーブリックβ(論述)】)

## (6) 本時の振り返り

### ア ルーブリック評価の分析

分析対象は本授業を実施した3学年8クラスの311人である。

評価の分布を表9と表10に示した。ルーブリックβ(論述)は教員評価が検証授業1の2.47から検証授業2の3.17へ、生徒の自己評価が検証授業1の3.22から検証授業2の3.44へ上昇した。教員評価と生徒の自己評価の差は検証授業の0.75から検証授業2では0.27へ縮小した。表9の検証授業1において教員評価と自己評価が一致している生徒は33%であったが、表10の検証授業では53%へ上昇した。教員より低い自己評価をした生徒の割合を合計したところ、検証授業1の56%から検証授業2の42%へと減少した。

検証授業1と検証授業2のルーブリック評価の平均値を表11に示した。ルーブリックα(対話)において、検証授業1

で生徒は概ねB(3.14~3.39)の自己評価をしたが、検証授業2では平均値が上昇した(①思考：検証授業1の3.14から検証授業2の3.64、②判断：検証授業1の3.39から検証授業2の3.61、③表現：検証授業1の3.33から検証授業2の3.67。)。A評価を目指した生徒が増えたことが理由と考えられる。

表9 検証授業1「社会保障と税制」  
生徒と教員のルーブリック評価の分布

		生徒の自己評価			
		A	B	C	D
教員 評価	A	8%	19%	17%	3%
	B	0%	17%	17%	0%
	C	0%	3%	8%	0%
	D	0%	0%	3%	0%

表10 検証授業2「労働問題を無くすには」  
生徒と教員のルーブリック評価の分布

		生徒の自己評価			
		A	B	C	D
教員 評価	A	25%	28%	3%	0%
	B	3%	25%	11%	0%
	C	0%	0%	3%	0%
	D	0%	0%	0%	0%

表11 検証授業1と検証授業2のルーブリック評価の平均値

	ルーブリックα(対話)			β(論述)	
	①思考	②判断	③表現	生徒	教員
検証授業1	3.14	3.39	3.33	2.47	3.22
検証授業2	3.64	3.61	3.67	3.17	3.44

※A~Dを4~1として平均値を算出した。



## イ ワークシートの分析

概念や理論の習得・活用の状況をワークシートの記述から分析する。授業のまとめとして自分の意見や考えを、キーワードを用いて論述させた。検証授業1の問いは「社会保障を充実させる上で公平な税制は何か」、キーワードが「垂直的公平、水平的公平」である。また、検証授業2の問いは「労働問題をなくすには、誰がどのようにすればよいか」、キーワードは「労使対等、契約」、提示した立場が「労働者、使用者、行政」である。

次に、ルーブリックβの評価が有意に上昇した生徒の記述を示す。

### 生徒E(問いとの結び付きを意識するようになった例)

自己評価 教員評価

[検証授業1] 垂直的公平の方が公平感があるが、高い税率の人が不満をもつかもしれない。水平的公平も一見公平に見えるが、収入の低い人が損する。高収入の人も低収入の人も損するのは避けられない。	C	C
[検証授業2] 労使対等の関係においては、契約を結ぶ際に、使用者側から過度な要求をしないことが大切なので、使用者が労働者の健康や精神状態を把握する仕組み作りが必要なのではないだろうか。	B	A

### 生徒F(根拠を入れることを意識するようになった例)

[検証授業1] 垂直的公平の在り方では、確かに収入が低い人たちは助かるが、色々と問題が起きる。しかし、水平的公平であれば、皆が平等であるため、いいと思う。	B	C
[検証授業2] 行政が、もっと労働問題に対して指摘し、広報するべきだと思う。なぜなら、労働者も使用者も自身の行為が違反かどうか、知識不足で判断できないからである。一方的な使用者から労働者への圧力がないように行政が見守るべきである。	B	B

生徒Eは、検証授業1ではキーワードの使用に重きを置いていたが、検証授業2で問いに正対した論述ができるようになった。また、生徒Fは検証授業1では自分の意見が書けていても、その根拠を明示できていなかった。検証授業2ではキーワードを適切に使うことが出来ていないが、接続詞を用いて根拠を明示できるようになっている。

## ウ 仮説の検証

ルーブリックβの評価の上昇や生徒のワークシートの記述から、現代の諸課題と生徒との関わりを意識させる問い(視点)を提示して、資料を読み取りまとめ、概念や理論を習得させることや、身近な話題を取り上げ、概念や理論を活用し多面的・多角的に考察する学習による思考力・判断力・表現力の向上につながったと考える。また、検証授業1のルーブリック評価から、生徒の到達度を鑑み授業改善を図った。その授業改善が検証授業2のルーブリック評価の結果に現れたと考える。

## エ 成果と課題

### (ア) 成果

政治・経済の授業において現代の諸課題を取り上げ、対話的活動により多面的・多角的に考察させることで、活用できる「生きた知識」として、望ましい社会の在り方に関する概念や理論を習得することができた。また、対話的活動においてルーブリックαのA評価を「望ましい姿」であることを伝えながら実践したことによって、検証授業1から検証授業2へ自己評価がA評価に近付くとともに、生徒自身の活動が活性化した。

進路多様校において、生徒は自己評価が低くなる傾向があるが、今回、検証授業1に比べて検証授業2では全ての項目において評価が上昇した。これは、実践を繰り返すことでルーブリック評価が生徒自身の活動の「ガイドライン」として機能し、自身の活動を肯定的に振り返るきっかけになったと考えられる。

## (イ) 課題

ルーブリック  $\beta$  で、自己評価がAの生徒は検証授業1の8%から検証授業2の28%へ上昇した。A評価を「望ましい姿」と伝えながら実践したが、「根拠を示すこと」と「自身の考えを述べること」を分けて考察することが出来ていない生徒もいる。改善点として、事前にルーブリックで示す目標(Aに該当)について、教員と生徒との間で目指すべき姿(目標)について相互理解を図る。さらにルーブリックを事前に示すとともに、必ずフィードバックをして、A評価の記述例を提示していくことで、目標(Aに該当)を強く意識しながら論述することにつながり、自己評価する際もルーブリックに基づいた評価につながると考える。

## VI 研究の成果

平成29年度の教育研究員高等学校公民部会では、学習過程ごとのルーブリック評価が、多面的・多角的に考察し、公正に判断する力及び論拠を基に議論する力を育むことについて研究した。課題としては、効果的なルーブリックの使い方・提示の仕方についてのさらなる研究と、学習過程に応じた「思考力、判断力、表現力等」を育むための単元指導計画作成の必要性が提示された。

それらの課題を引き継ぎ、本研究では、「社会的な見方・考え方を働かせて考察・構想する学習活動」に着目して、適切な学習評価を設定することで思考力、判断力、表現力等を高めることができると考えた。2回の検証授業においては、現代の諸課題の解決に向けて、概念や理論を選択・判断の手掛かりとして活用し、考察する学習活動を充実させた。また、思考力、判断力、表現力等を把握するためのルーブリックを2種類作成した。対話的活動においては生徒の自己評価を、まとめの論述活動においては、生徒による自己評価と教員評価を実施し、2回の検証授業と比較した。

以下に、実践事例Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ及びルーブリックを用いた仮説検証による研究成果を報告する。

### 1 「問い」の設定による現代の諸課題と生徒とのつながり

単元を貫く問いを設定するとともに、現代の諸課題の考察につながるように学習過程ごとの問いや視点を吟味して設定した。生徒は、学習する際に、現代の諸課題との関わりを意識しながら、課題の解決のために有用な知識であるという見通しをもつことで、活用できる「生きた知識」として習得することができた。「問いの吟味」と「見通しをもたせた学習活動」を行ったことにより、現代の諸課題に対する選択・判断の手掛かりとして活用できる概念や理論を生徒が身に付けることができたと考える。また、対話的活動における問いやテーマとして、生徒にとって身近な話題を取り上げたことで、当事者意識をもちながら現代の諸課題を考察することができた。

### 2 社会的な見方・考え方としての概念や理論の活用と思考力、判断力、表現力等の育成

授業導入部や展開部において、学習活動の鍵となる社会的な見方・考え方としての概念や理論を明確にし、それらを活用する場として、対話的活動を取り入れた。授業のまとめの

習得した概念や理論を活用した論述活動により、習得した概念や理論を活用する学習過程を構成し、知識の習得と活用の一体化を図った。対話的学習の成果をグループごとに発表することで、多面的・多角的な考察を行うことができた。

学習の成果として、ワークシートの記述分析において、現代の諸課題の解決に向けた問いに正対し、社会的な見方・考え方としての概念・理論を活用した記述が見られた。検証授業1と検証授業2は異なる学習内容であるが、論述の課題に対する学習到達度が向上したことから、社会的な見方・考え方としての概念や理論を活用し、思考力、判断力、表現力等が育成できたと考えられる。

### 3 学習評価の工夫（ルーブリック使用の意義）

ルーブリック $\alpha$ 及びルーブリック $\beta$ を作成し、それぞれ対話的活動とまとめの論述活動において活用した。対話的活動においては、生徒の目指すべき姿についてルーブリック $\alpha$ の観点①を思考力、観点②を判断力、観点③を表現力と分け、観点ごとに自己評価させた。論述活動においては、概念や理論を活用し、思考力、判断力、表現力等を働かせた論述の目指すべき在り方を想定し自己評価させた上で、教員評価を併せて実施した。生徒にルーブリックの評価規準について事前に説明することで、学習活動の見直しをもたせることができた。特に実践事例Ⅲにおいては、ルーブリック $\alpha$ の平均値が各項目において向上しており、生徒が自分自身の目指すべき取組の姿を意識できるようになったことが伺える。ルーブリック $\alpha$ の評価も、数値が上昇傾向にあり、具体的な思考力、判断力、表現力の各観点における、目指すべき姿を生徒に意識させたことが、それらの力を育成することにつながったと考えられる。

今回の実践事例Ⅰ、Ⅱ、Ⅲにおいては、共通のルーブリックを使用した。このルーブリックを学校全体で教科横断的に活用することによって、生徒が自己を適切に評価することに習熟し、学校全体として目指す資質・能力の育成につながると考える。

また、ルーブリック $\beta$ により、生徒自身の学習到達度の振り返りを促したり、教員との評価の差を分析したりすることができた。この分析を活用することで、問いの難易度の再設定や習得のための学習活動の見直し、活用すべき概念や理論の精選につながり、教員の授業改善を図ることができた。本研究において活用したルーブリック評価が、今年度の研究員全体テーマである「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善」の具体化と実践に対して、一定の効果があることを明らかにしたと考える。

## VII 今後の課題

### 1 学習活動の課題

単元において基軸となる問いを設定し、各授業でも対話的活動やまとめ論述で現代の諸課題と生徒とのつながりに気付かせる問いを設定したことで、社会的な見方・考え方を働かせて現代の諸課題を理解したり、多面的・多角的に考察したりする学習活動を実践することができた。その一方、問いと知識を活用させる論述等をどう設定するかに関して課題が残った。どのような資質・能力を育成したいかによって、問いの質は大きく変わってくる。また、課

題の質の設定は容易ではなく、活用させるための知識をどのくらい、どのように身に付けさせるかが学校によっても異なる。そのため、問いと課題の設定の仕方は常に検討し続ける必要がある。

なお、新しい時代に求められる資質・能力のうち、本研究では「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」については検証授業や学習評価による授業改善を重ねることで一定程度を身に付けられることが実証された。今後は、「学びに向かう力、人間性等」について、どのように育成していくかを検討する必要がある。「現代の諸課題についての深い理解を通して、主体的に解決しようとする態度と人間としての在り方生き方についての自覚の涵養」については、今後の研究課題として挙げられる。

高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月）を踏まえると、本授業実践は「探究」的な学びの基礎となる「習得」と「活用」の学習に位置付けられる。今後は、生徒が自ら問いを設定し、問いに対する仮説を立て、自ら調べ探究する学習活動を展開していく必要がある。

## 2 学習評価の課題

ルーブリック評価については、ガイドラインとしての機能に加え、思考力、判断力、表現力等の育成に効果があることを示した。課題としては、本研究において提示したルーブリック  $\beta$  の A 評価と B 評価を分ける「根拠に基づいて」という文言に関して、どのように生徒と教員の共通理解を図るかという点が挙げられる。この点の解決には、生徒へ適切なフィードバックをすることに加え、事前に具体例を通じた評価をする練習を行うことや、評価だけでなく改善点を振り返る活動を取り入れることが重要である。

また、対話的活動における思考力、判断力、表現力等をルーブリック  $\alpha$  によって評価したが、検証授業 1 と検証授業 2 で有為な差が見られなかった。理由としては、対話的活動において授業者が具体的なイメージを示すことができず、生徒の目標が明確化できなかったことが考えられる。本研究では、学習評価の場面設定や学習到達度を把握し授業改善につなげる学習評価の活用において一定の成果があった。ルーブリックの運用に関して、評価規準の精査を行うことで、生徒の成長につながる工夫を行うことができる。

## 3 授業改善に向けた課題

公民科の年間授業計画において、対話的活動と論述活動をルーブリックによって評価する形式の授業と、一斉授業型の知識を習得することを主とした授業とのバランスをどう取るかという課題がある。ルーブリックを取り入れた授業実践は、生徒にとっては毎時間の成果物の提出が必要となり、教師にとっては授業準備及び成果物の評価という業務量の増加につながる。その一方、本研究が示したとおり授業改善に成果があることから、活用できる知識としての概念や理論を習得させる学習活動と、学習評価の改善に努めることで、生徒が新しい時代に求められる資質・能力を身に付けることができると考える。

今後は、ICT やワークシート、諸資料等を活用することで効果的に知識を定着させると共に概念や理論を身に付けさせる一斉授業型と、中単元に 1 回程度のルーブリック評価を取り入れた授業とを効果的に配置するなど、授業計画の見直しを行う必要がある。

# 平成 30 年度 教育研究員名簿

## 高等学校・公民

学校名	職名	氏名
東京都立葛飾野高等学校	教諭	外側 淳久
東京都立井草高等学校	教諭	杉浦 光紀
東京都立立川国際中等教育学校	主任教諭	◎黒岩 公輔

◎ 世話人

[担当] 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課  
課長代理 宮路 みち子

平成 30 年度

教育研究員研究報告書  
高等学校・公民

東京都教育委員会印刷物登録  
平成 30 年度 第 135 号

平成 31 年 3 月発行

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号  
電話番号 (03) 5320-6849  
印刷会社 康印刷株式会社